



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

160号

2025年8月25日発行号

10月4日開催『自然文化誌研究会 50周年記念』のご案内

自然文化誌研究会（冒険探検部）50周年記念イベント

「INCHと私—今までとこれから—」 開催のお知らせ

菱井優介（自然文化誌研究会理事）

いよいよ開催まで2か月を切りました、「50周年記念企画」について再度ご案内します。

50年間で関わっていただいた方々に、新旧問わず集っていただき、思い出話とこれからについて語り明かしましょう！そんな会にしたいと思っています。今回のイベントは一言でいえば、『農園で大同窓会』です。

第1部は、「INCHと私の今までとこれから」と題し、参加型のトークセッション（オンライン配信あり）を行います。

第2部は、農園でINCHならではの料理を楽しみつつ、さらに語り合う時間です。終了時間は、なんと決まっていません。農園にそのままテントで泊まるのもあります。（施設に許可を得ています。）残念ながら、ご参加できない方も、メッセージのみ投稿できるようにしています。ぜひ、「INCHと私」についてコメントいただくと嬉しいです。

みなさまと再会できることを心から楽しみにしております。

実行委員一同

日時 2025年10月4日(土) 12:00 開場・受付 第1部 13:00～ 第2部 15:00～

場所 東京学芸大学 環境学習研究センター多目的室および農園

対象 自然文化誌研究会 会員・元会員・冒険探検部・関係者

参加費 第1部 無料 第2部 学生500円 一般1,000円 カンパ箱も用意しております。

（地方からの持ち込み大歓迎です！）

内容

13:00 第1部 『INCHと私 これまでとこれから』

15:00 第2部 『50周年を祝うパーティー！みんなで盛り上がりよう！』

*お子様の参加について

参加は可能ですが、保護者の方が同伴で責任をもって安全管理をお願いいたします。

（全員が参加者になるので冒険学校的なスタッフはいません）

*農園に泊まる方へのご案内

周辺へのご迷惑にならない範囲でお楽しみください

テント、銀マットは用意していますが、**寝袋は各自でご持参ください。**

*お申込みフォームはこちら <https://forms.gle/EqNwsCVMfR2uU15f6>

↓当時の思い出などを書き込めるようになっています。ぜひ事前に申し込みフォームからお申し込みください。



当日の資料・食材の準備のため、参加される人数が事前に分かるように進めております。ぜひ事前に申し込みフォームからお申し込みください。サプライズよりもありがたいです。**9月中旬までにお申し込みいただくと助かります！！**

『こすげ冒険学校』報告

こすげ冒険学校村長 贅田（にえだ）隼人（だにえる・自然文化誌研究会運営委員）

今回の冒険学校は天気にも恵まれ、川遊びをはじめとして、工作、虫取り、キノコ採りなどたくさんの遊びに打ち込める7日間となりました。

例年よりリピーター、中学生の参加率が高く、初日から様子見することなくどんどん活動をしていく印象でした。昨年は参加できなかったけれど、今年ようやく参加できたという子たちもおり、久しぶりに会う友達やスタッフと嬉しそうに語り合う姿もあり、終始よい雰囲気です。冒険学校が開催できたと感じます。

小菅村に副村長が設置されたことをきっかけに、今回の冒険学校では副村長を作りました。相談相手がいることで僕の気が楽になりましたし、全体の把握を任せて参加者とじっくり向き合う時間をとることができました。特に、僕も小集団行動のリーダーとして参加者を連れて行くことができたのがとても有り難く、キャンプ場を離れて一夜を明かすことに少し不思議な感じがしつつも、しっかり楽しむことができました。また、今回虫取りに同行していて、子どもたちがやりたいと想定していたことを上回るような内容や熱量で取り組むスタッフが本当にかっこよく、僕自身、更に研鑽を積まなくてはと刺激を受けました。

スタッフたちの尽力、保護者のみなさまが準備して送り出していただいたこと、参加者のみんなが冒険学校に真剣に向き合ってくれたことのどれか一つが欠けては、冒険学校を無事に終えることができませんでした。本当にありがとうございました。来年、また小菅の地で会いましょう！

副村長 和田峻太郎（りょうたろう・本職は小学校教諭）

今回、INCH キャンプで初となる「副村長」をさせていただきました。副村長の打診をいただいたときは、私がおとなな立場でいいのだろうか、キャンプで初めて創られたポジションであり、一体何をすべきなのだろうかと困惑しました。

キャンプが始まると、今まで過ごしたキャンプと似たような時間が流れていました。子どもが川や工作など全力で遊び、スタッフが安全に配慮しながら子どもを見守る。私自身も子どもたちが、「副村長！一緒にブランコやろう！」や「副村長！ナイトハイク行こうよ！」と、今まで参加した時よりも話しかけてくれたのが嬉しかったです。

また、村長が小集団活動に行っている間は、ミーティングの進行や夜のプログラムの計画をさせていただきました。初めて、自分が子どもと進めるミーティングは、いつも仕事で行っている感覚と異なり、新鮮でした。

最後に、準備からキャンプ中、片付けまでたくさん助けていただき、励ましていただき、協力していただき、ありがとうございました。

スタッフ 宮下倫太郎（みやりん・東京学芸大学3回生）

3度目の冒険学校は楽しさと同時に悔しさを感じるものとなりました。

小集団行動では初めてリーダーとしてチームを率いる立場になりました。準備段階でチームとしての方向性を定めることができなかつたことが心残りです。結果として火起こしや、テントの設営、調理などみんなで協力してできたこともたくさんあり、子どもたちは楽しんでくれましたが、せっかくの普段とは違う環境に身を投じる機会なので、もっと刺激的で高いレベルの小集団行動にしたかったです。課題が多く残る活動でしたが、寝る前にみんなで過ごした時間は子どもたちとの距離がまたぐっと近づいたような気がして良かったです。

釣りプログラムでは大きな成果が得られました。例年釣れず難しいと言われる中で、イワナを4匹も釣ることができ、素直に嬉しかったです。同行するスタッフの負担や、仕掛けづくりなど、問題点は幾つか見つかりましたが、来年までに解決策を見つけてまたチャレンジしたいと思います。

たくさんの課題と反省がありながら、今年の冒険学校も無事に楽しく終えることができました。この文章を書きながら思った「ああしておけば…」を改善できるよう、来年また頑張りたいと思います。



＜参加者の感想＞

安藤 舜悟くん (小学校5年生)

【初めての小菅村冒険学校1週間】

武蔵小金井駅から猿橋駅に電車に乗って行きました。ラグビーの友達と行ったのでワクワクしかありませんでした。つらかったことはありません。料理などは先生が全部やってくれました。子どもはみんな自由に遊んでいました。

楽しかったことは川遊びと虫取りで、虫取りでは9cm大のカブトムシを捕まえました。気が合う人が沢山いました。例えば川遊びが好きな人など、みんなと一緒にずっと川遊びで水をかけ合いました。新しい友達ができ、ラグビーの仲間もいましたカボール遊び禁止で、ボールがなくても遊べることを知りました。

今までの合宿と違ったことは時間割のない事と寝る時間は10時に決まっていたけど起きる時間が決まっていなかったことです。

自分は遊びたくて5時半に起きました。早く起きたら、散歩に出かけたり沢山遊べて、朝ごはんもより美味しく感じておかわりしまくりました。早起きが習慣になりました。また絶対に行きたいです。皆さん一緒に遊んでくださりありがとうございました。

池森にくん (小学校5年生)

今年もありがとうございました。今年の冒険学校は雨が少なかったため、遊べる時間がたくさんあり、1週間が去年より短く感じました。

今年が初めての小集団が一番楽しかったです。去年から行きたいなと思うだったので、行けてよかったです。小集団では、電気もガスもないところでサバイバル生活をするのがすごく楽しかったです。かまどは石で作ったり、川の中に石で円を作りその中に飲み水などを入れて冷やしたりしました。しかも、夕方に猿の群れを見られたのでラッキーでした。暇なときはみんなで水切りなどをしたり、音楽を聴いたりして、みんなで楽しみました。夜ご飯に肉を食べるとき、包丁を忘れたと気づきましたが、友達がサバイバルナイフを持ってきてたので、肉を切ることができました。太い棒を切ってたき火にいれて燃やそうとすると、そのサバイバルナイフのノコギリで短く切ることができました。サバイバルナイフはすごい役に立つなと思いました。朝にはみんなでココアを飲み、パンにジャムをつけて食べました。帰るときはあいにくの雨でしたが、無事に帰ってこれてよかったです。昔の人は、こうやって生活してたんだというのが分かり、貴重な体験でした。



安倍健くん (中学校1年生)

4年前の夏に一度行ったきりでしたが、久しぶりに小菅のキャンプに行き思い出しに触れることもあり、楽しかったです。特に、印象に残ったのは小集団です。理由としては、人里離れ、ガス・水道・電気そして電波も通っていない所でテントを張り、そこで一晩を越したからです。スタッフさんはとても頼りがいのある人たちでした。あと、ハルちゃんのご飯がおいしかった。

安倍隼くん (小学校4年生)

はじめてこすげにきて、さいしょはふあんだったけど、どんどん慣れていき、三日目になると夜にむしとりまで行きました。まきを切ったりすることがたのしかったです。すきになったけしきは、おだきでした。はるちゃんのごはんがとくにおいしかったです。来年もまたきます。

鈴木真理さん (小学校5年生)

人生初めての1週間のキャンプだったのでとても緊張していました。けれど、猿橋駅からバスで移動する時に、大学生が話しかけてくれたので、その時からあまり緊張しなくなりました。

キャンプ場に着くと、まだ子供は少なく大学生がたくさんいました。すぐに昼食だったのであまり子供と喋れなかったけれど、習い事をいつも手伝いに来てくれる大学生がいたので、その大学生と一緒に昼食を食べた後に川遊びをしました。川は思ったよりも水が冷たくて、最初はあまり入れませんでした。けれど、だんだん慣れてきて気持ちよかったです。

他にもキャンプ場では、竹馬や工作をしました。特に工作では、3、4日目くらいに全冒険学校ツルツル木材選手権があり、そのためヤスリを取り合うようにして木を削るのが楽しかったです。自分で彫ったお魚のマスコットもうまくできて嬉しかったです。夜には普段あまり食べない夜食が食べられて嬉しかったです。あと、このキャンプで仲良くなった4年生のさらちゃんとはるちゃんと恋バナをしました。こういう機会はあまりなかったため新鮮で楽しかったです。

最初、キャンプに着いたときは、皆何をしているんだろう、、と、自由すぎてびっくりしたけど、そこから自分でいつ、何をすればいいのか考えるのが楽しかったです。他にも沢登りや薪割りなど、ここでしかできない企画が楽しかったです。来年は小集団に挑戦したり、友達を作って、もっと楽しいキャンプにしたいです。

スタッフの佐々木正久さんのYouTube「まー君のナチュラル」で、「こすげ冒険学校」の活動の様子が観られます！！
(チャンネル登録よろしくお願ひします)

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

令和7年度の助成を受けて開催しました。

宮本茶園 宮本透

佐野川で足柄茶を生産している藤野茶業部農家は 2022 年に 3 軒となり、相模原ブランド構築を目指す佐野川茶生産農家は昨年から 2 軒のみになってしまいました。地域には自家用荒茶に使う茶葉を栽培する農家は今なお数十軒ありますが、どこも高齢化と後継者不足は深刻です。茶園管理作業を一人で行う事が難しくなり、剪枝・整枝の相談を受ける事が多くなりました。私は新規就農時に剪枝機・浅番刈機・刈らし機と目的に応じた二人用管理機械を購入、県農業技術センターの整枝講習会や営農指導で操作技術を習得しました。お話しをいただくと園主の希望する刈り込み深さにあった機械を用意し、作業のお手伝いをしています。藤野茶業部の昨年度県茶品評会・茶園共進会 2 等賞の実績、佐野川には茶園管理技術を高く評価して下さる方が増えたようです。

先日相模原市農政課に農業経営改善計画認定申請書を提出しました。2016 年新規就農計画書を提出以来ずっと茶・雑穀栽培に取り組んできましたが、残念ながら雑穀栽培は昨年の収穫で断念しました。藤野茶業部が解散した 2026 年 4 月からは茶栽培に専念して佐野川茶生産を担います。宮本茶園の営農活動は今なお後継者育成ができず厳しい現状ですが、5 年後の目標を実現する手だてを考えながら申請書を書き上げました。佐野川茶 8 年間の取り組みが相模原市の農業生産を担う認定農業者に値するかどうか、審査結果を待ちたいと思います。

・藤野茶業部佐野川茶 2 年連続の神奈川県茶品評会入賞

藤野茶業部活動最後の摘採作業は作業人員確保に全力を尽くしました。ヘルパー・自家用茶栽培農家にアルバイトを依頼すると並行し、初めての試みで藤野観光協会から紹介された高尾ファームに摘採機操作・茶葉搬送作業の請負をお願いしました。大河原・宮本茶園の佐野川茶用茶葉摘採作業は 3 日間の日程に 13 人の方が関わってくださり、全ての茶葉を摘採する事ができました。収穫した生葉は刈り始めから 3 時間以内に全てチャピュア清川工場へ搬送して荒茶加工、茶来未佐々木社長から「どちらも甲乙つけがたい良質の荒茶ですね」とお褒めの言葉いただきました。茶来未で仕上げていただいた今年の新茶、評判は上々です！(写真①②)

6 月になると神奈川県茶品評会出品準備にチャピュア清川工場へ通いました。品評会にはチャピュア清川工場加工した和田茶園の足柄茶出荷荒茶と 2 軒の佐野川茶用荒茶、計 3 点を出品する事にしました。機械や篩を使って木茎や粉を取り除き、室温を調整した清潔な作業室でピンセットを使い処理した荒茶から白色の棒を根気よく取り除きました。整枝・施肥・有機資材敷き込みと丹精込めて育てた茶葉をチャピュア清川工場の技術で仕上げていただいた荒茶、最高の状態で品評会審査に臨めるよう気を引き締めて作業しました。(写真③④)

7 月 18 日神奈川県茶品評会審査が行われました。藤野茶業部は荒茶を 4 点出品しましたが、チャピュア清川工場加工した荒茶 3 点は全て 2 等賞でした。今年は足柄茶 100 周年、残念ながら藤野茶業部は解散しますが足柄茶北端産地の茶農家の矜持は 2 年連続上位入賞という結果で示す事ができました。産業としての佐野川の茶栽培、後継者 X 君との出会いを熱望ながら精進続けます。



・夏の茶仕事

大河原副部長から佐野川茶を授業教材にしている津久井支援学校の先生方を紹介されました。教員免許失効以来県立学校とお付き合いする機会は全くありませんでしたが、中学部の生徒が佐野川茶を教材に食べ物や茶製品を使った食べ物作り等年間を通した学習活動をしているそうです。茶園見学したいとの相談をいただき上岩茶園を訪ねてもらった事になりましたが、車椅子を使う生徒の移動時間を考慮すると茶園滞在時間は 20 分程です。教員生活のスタートが学芸大附属養護学校だった私は支援学校の子もたちに学校の中では体験できない企画を考え、茶摘みと中切り更新剪枝作業の見学を先生方に提案しました。剪枝機操作は危険を伴うので、県農業技術センターの先生方にも協力をお願いして受け入れ準備を整えました。茶畑を初めて見た子どもたちは楽しそうに茶葉を摘み、剪枝作業

を見学していました。四季折々きめ細かな茶園管理作業をして美味しい佐野川茶が生産されている事、しっかりと勉強してもらえたと思います。津久井支援学校との交流、今後は楽しみです。(写真⑤⑥)

6月19日夕方の事です。剪枝作業中に段差を踏み外して転倒し、右足首を打撲しました。幸い大事には至らず痛みを我慢して作業を続け、18時過ぎに剪枝機を片付けて帰宅しました。翌朝右足首は痛風発作のように腫れ上がり痛みも強くなったのですが、週末まで請け負った剪枝作業を続けました。23日朝起床して立ち上がると耐え難い痛みで、上野原市立病院整形外科に向かいました。右足首靭帯損傷全治2週間の診断で、痛み止めと湿布薬を処方されました。野良仕事はできなくなりましたが、会議出席や新茶納品など藤野茶業部部長の仕事は休む事ができません。7月5日からは夏整枝作業を予定して、ヘルパーにアルバイトをお願いしています。痛みをこらえ右足を引きずりながら夏整枝・夏肥作業を終えたのは8月6日、立秋の前日でした。

2022年夏の終わりに救急搬送されてから脳や心臓疾患・熱中症と医者通いが多くなり、今年の夏は野良仕事に支障が出る怪我をしました。昨年までINCH活動で雑草栽培を続けた穀物畑は古澤さん親子にゴエモン佐野川チームの醤油仕込みに使う小麦を収穫してもらいましたが、耕耘機で耕起もできず大豆播種を諦めました。手入れができなくなった穀物畑と花卉畑は雑草が生い茂り、情けなくなります。もう一人で8反5畝の農地は耕作できないのかもしれない。昨年からみちくさの会と協働事業に取り組んでいる和田茶園の利用権設定期間が12月末で終了します。今年足柄茶に出荷した荒茶は県茶品評会2等賞になりましたが、地主さんにお返ししようと考えています。新規就農から9年間耕作してきた茶園、耕作放棄せずにみちくさの会や地域の皆さんと一緒に管理を続けて「にほんの里100選」の茶畑景観を守り、観光資源としての価値を高めたいです。(写真⑦)



⑤



⑥



⑦

・第47回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

6回目になる相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の花卉栽培、今年は吉田さんに加えて古澤さん親子と鵜の会の瀧柳さんが担って下さいました。花卉畑への元肥施肥は内郷の動物堆肥積み込みを吉田さん、堆肥撒布を古澤さん親子が手伝ってくれたおかげで昨年は開花が間に合わなかったロシアヒマワリは5月7日に1000株を播種する事ができました。(写真⑧) 献花用ヒマワリ2品種を500粒ずつ播種、ヒャクニチソウは100粒播種して育苗・植え付け作業に取り組みました。スタッフの皆さんが欠株に苗を補植したりこまめに雑草取りをして管理作業をしてくれたので、ヒマワリ・ヒャクニチソウは順調に生育して安心していました。

右足首を怪我してから急傾斜の花畑が歩けず、茶園の夏整枝作業も始まり一月近く花卉畑に入る事ができませんでした。茶園から望む花卉畑は7月連休前になってもロシアヒマワリの花がまばらに咲くだけで、中に入ると背の低い献花用ヒマワリは雑草に覆われ開花していません。2日間必死に草刈りして蕾に日光を当て7月26日には満開となり、必要数を確保して収穫する事ができました。朝7時半に収穫スタッフは上岩集合、ヒマワリとヒャクニチソウを切って槽に詰めていきます。軽トラで相模湖交流センターへ3回搬送、約1000本の生花を用意する事ができました。27日追悼会当日は飾花された会場でたくさんの参加者がヒマワリを献花して下さいました。戦後80年、日本が再び中国侵略戦争をしない事を願っています。(写真⑨⑩)



⑧



⑨



⑩

冒険学校は「冒険」なのか（中編）

「溶解体験」としての「遊び」

宮坂朋彦（みややん・自然文化誌研究会 運営委員）

前回、ジブリ作品や絵本に共通する「行きて帰りし物語」という構造を紹介した。また、「かいじゅうたちのいるところ」を例に、子どもが遊びに夢中になっているような体験が、日常の生活とは異なる人間の在り方を示している、ということに仄めかしたところで終わった。

行きて帰りし物語の構図から示唆されるのは、「遊び」が、日常生活(ご飯の匂い)と非日常(かいじゅうたちの島)を行き来することによって、深い生の経験をもたらしているという事実である。今回は、日常の生活とは異なる人間の在り方とはなんなのか、そして、「行きて帰りし」の構造が、いかに冒険学校の体験と通底しているのかに迫っていこう。

3. 有用性と日常世界

前回見たように、「行きて帰りし物語」的な構造を持った「遊び」の最大の特徴は、**時間や空間といった日常的な感覚が崩れていくことにある。**

ひとくちに「遊び」といってもさまざまである。スポーツやカードゲームなどを含め、ルールがあって競い合うような、いわゆる「ゲーム」と言われる種類の遊びには、こうした日常的な感覚の崩壊という特徴はあまり見られない。というのも、「ゲーム」的な遊びに見られる目的を達成するための合理的思考は、日常世界における思考と地続きであるためである。

矢野によれば、日常世界というのは労働をモデルとする有用性の世界である。有用性の世界では、基本的に何かを行う「わたし」と何かをされる「あなた」や「なにか」あるいは「道具」というふうに、「自己」というものがはっきりしていることで、「客観的に」判断しながら行動することが求められる。難しい言い方をすると、人は、自分と対象を分節化することで、理性的に生活することができるのである。

一方、「かいじゅうたちのいるところ」が典型的に示すように、「ごっこ遊び」のようなたぐいの「遊び」に顕著なのは、こうした日常の「合理的」な感覚の解体である。よく「世界に入り込んでいる」という言い方をするが、ごっこ遊びの絶頂は、まさにその遊びの世界と自分自身とが溶け合うくらいに密着している時である。このとき、一歩引いて「うまく」やろうとしたり、ルールを決めようとしていたり、一旦休憩したり、ともかく「合理的」な思考がひとたび支配的になると、「さめて」しまうことがしばしばある。そこからもういちど、遊びの世界に没入するためには、少し時間がかかることも多い。これは、「遊び」を「客観的に」見てしまうと、そもそもなぜこんなことに夢中になっているのか？と、子どもは日常生活に引き戻されてしまうためである。

4. 溶解体験

このような没入体験のことを、矢野は、ジョルジュ・バタイユ (Georges A. M. V. Bataille, 1897-1962) や作田啓一 (1922-2016) などを援用しながら、「**溶解体験**」と呼んでいる。「溶解」という言葉が示しているように、遊びを代表例に、優れた芸術作品に接したとき、自然に畏怖を感じたときにも共通する、**世界と自己の境界線が溶けあってしまうような事態**を指している。

普通、教育や学習というのは有用性の世界で語られる。例えば、ごっこ遊びを有用性の尺度で図ると、それは「コミュニケーション力が育まれた」とか、「家事についての知識が身についた」とか、何かの「役に立った」こととして評価されることになる。一方、溶解体験は、日常世界における有用性の尺度では測れない、「生きていること」そのものと触れ合うような経験ということが出来るかもしれない。矢野は、こうした溶解体験でしか得られない教育の位相を、「生成としての教育」と呼んでいる。

私たちはこうして、深く体験することによって、自分をはるかに超えた生命と出会い、有用性の秩序を作る社会的な人間関係とは別のところで、自己自身を価値あるものと感じることができるようになる。未来のためではなく、この現在に生きていることがどのようなことであるかを、深く感じるようになる。このような体験による教育を、「生成としての教育」と呼ぶことにしよう。

(矢野 2008:125-6)

さらに、「溶解体験」が教育や学習として健全に機能するのは、日常生活へ戻るといった回路が確保されている限りにおいてであるという。つまり、「行きて帰し物語」に象徴される「遊び」とはまさに、世界と一体化してしまうギリギリのところまで踏み込みながら、再び日常世界へ戻ってくるという意味で、ある種の「冒険」と呼ぶことができる。これは、いわゆるアウトドア・サバイバルとしての冒険・探検よりも広い意味での「冒険」が、子どもの遊びのなかに内在しているということを示唆している。

では、冒険学校という教育の場において、こうした「生成としての教育」へつながるような「冒険」を、いかに看取することができるだろうか？

(次回へ続く)

矢野智司, 2008, 『贈与と交換の教育学：漱石、賢治と純粹贈与のレッスン』東京大学出版会.



植物と人々の博物館 Plants and People Museum

Vol.40

西村俊 自然文化誌研究会理事

梅雨は雨が少なく、夏の訪れが早く感じました。8月も下旬に入り、段々と暑さが和らいでくれることを願うばかりです。



植物と人々の博物館の再整備(資料の確認や展示物の整理)を行う『作業日』を定期的に関催しています(3/30、4/28、5/12、7/13、7/27、8/31

実施、写真)。植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。公共の財産として活用いただけるように、引き続きご協力いただくとありがたいです。今年度中に『内覧会』を行うことを計画しています。視察や資料の閲覧も適宜受け入れています(4/10 泉龍寺座禅会、5/17 次代の食と農を考える会、5/17 北杜市の雑穀栽培者、5/28 東北大学センターなど)。ご協力いただける方、資料など閲覧したい方、曜日や日時を調整しますので事務へご連絡下さい。

【主な収蔵品】書籍 およそ 8,000 冊(インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書)、農林業、雑穀、民族植物学、環境、人類学、教育などの資料、森林政策(財・森とむらの会の全資料)。日本、インド、タイなどの民具。インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本など。

「冒険学校 まふゆのキャンプ」

12.26~28(2泊3日)

毎年恒例の「冒険学校まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あられるスタッフがみなさんの参加を待ってます！！

日程：12月26日（金）～28日（日）

場所：清水バンガロー（小菅村のいつものキャンプ場）

宿泊：一人用テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校3年生～中学校3年生

定員：18名

11月21日（金）必着（締め切り厳守になります）に事務局までをお申し込みください。参加者が定員を超えた場合は抽選になります。

※抽選になった場合について：

①参加の可否については11/28日（金）までに郵便orメールで通知します。

②兄弟・姉妹間での参加の交代等は無しとします。

参加費：会員¥28,000 非会員¥30,000

（猿橋駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などを含む）

申込み：ハガキ・もしくはE-mailに郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、事務局まで参加をお伝えください。



<国土緑化推進機構 令和7年度「緑と水の森林ファンド」助成事業です>

INCHまつり（ライブ）開催のお知らせ

秋の一大イベント「INCH祭り（ライブ）」を開催予定で進めています！ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方も、歌わない方も、お酒を飲まない方も、久しぶりの小菅村の方も、ぜひぜひお越しください♪音楽しない方はのんびりしていても、もちろんOKですよ～♪

冒険学校スタッフの普段見られない姿にも出会えますよ♪

■日程9月27日（土）16:00 開演～9月28日（日）

日帰りもOK、早く来られる人は一緒に準備を！

■会場：清水バンガロー（小菅村いつものキャンプ場）

■対象：子ども単独での参加はできません（全員が参加者になるので冒険学校的なスタッフはいません）

■費用：日帰り1,500円 宿泊3,500円 食事付

■お酒はカンパ制です。持ち寄り大歓迎！！

■温泉代は各自（割引券アリ）です。

■交通機関 ※小菅村までの交通は自力になります。

■お申し込み：9/25までに事務局までご連絡ください。

■9/28は予定が無いのでのんびりしてってください。



ナマステ160号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2025年8月25日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村3337-2

TEL: 090-3334-5328 (事務局 黒澤) E-mail: npo_inch@yahoo.co.jp H P: <http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html>